

## 教養学部 教養学科

# 超域文化科学分科 比較文学比較芸術コース

<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/senior/lit-art/index.html>

## 本コースの沿革

かつて「教養学部教養学科比較日本文化論分科」があり、「大学院比較文学比較文化コース」に所属していた全教員が関わっていました。2011年の改組で他の分科と合併し、「教養学部教養学科超域文化科学分科」になりました。この分科には7つのコースがあります。「比較文学比較芸術コース」は、旧「比較日本文化論分科」のうち文学・芸術関係の分野を引き継いでいます。現在も本コースは「大学院比較文学比較文化コース」と深い関係を持ち続けており、本コースに所属している専任教員の全員が「大学院比較文学比較文化コース」に所属し、本コースの卒業生のうち「大学院比較文学比較文化コース」に進学する学生も多くいます。

## 本コースの特徴

本コースの特徴は、文学と芸術を主たる研究対象としていることです。一篇の詩、一枚の絵、一つの楽曲には、それ自体の尽きせぬ魅力とともに、文化の根源につながる通路が埋め込まれています。比較の視点を重視しながら、文学と芸術の双方にまなざしを向けることによって、その基盤にある文化研究にじっくりと取り組みます。

## 比較研究とは

私たちの考える「比較」とは、文化の越境とジャンルの越境（時にはその両方の越境）を指しています。文化的な地域をまたいだり、ジャンルの垣根を越えたりすることで、今まで見えていなかった視野が開けてきます。具体的な研究の方向を一覧にしてみましょう。

- ◆ 複数の文学・芸術間の影響受容関係の分析
- ◆ 複数文化の交流・交渉・葛藤などに関する歴史的な考察
- ◆ 「異文化」理解の今日的な倫理の構築
- ◆ 直接的な影響関係のない類似文化現象の比較検討
- ◆ 比較研究を意識しながら特定の文学、芸術、文化の研究

本コースでは、研究の基盤として、文学であれ芸術であれ、対象となる「作品」への実証的、歴史的な接近と分析を大事にしています。作品への深い興味に基づき、具体的な資料を用いて、その特質を丁寧に論じていくことを方法の基礎としています。

## 本コースの履修について

### 履修モデル



本コースでは、以下のようなカリキュラムが組まれています。

- ◆ 資料・文献調査方法、比較研究の理論、調査研究実習、卒業論文演習。
- ◆ 外国文学および外国芸術を学ぶための、語学も含めた専門的基礎の習得。
- ◆ 外国文化を視野に入れた近代日本文学・芸術の幅広い研究。そのために必要な近世・近代日本文学や日本文化に関する知識の習得。
- ◆ 比較文化論へ拓いていく視野。

主な研究領域として、近代以降の文学、美術（絵画・写真等）、音楽、映画などを想定していますが、サブカルチャーの研究も軽視していません。比較研究の基礎を学んだ上で、外国文学・芸術の研究や日本に特化した研究もできます。

文学と美術、文学と音楽など、ジャンル間の垣根を低くし、複数の文学・芸術に触れる機会を提供するのも、本コースの特徴です。本コースでは、皆さんが興味を深く掘り下げ、的確に広げて、卒業論文制作へとつなげていく過程を重視しています。以下は先輩たちの研究テーマの例です。

#### 【2022 年度】

- ・「挿絵本『艶なる宴』に見るバルビエの夢と理想」
- ・「手塚治虫『火の鳥』における亜人間の表象」

#### 【2021 年度】

- ・「ウィリアム・モリスの教育観とその実践」
- ・「字幕翻訳とは何か——ディズニー・ルネサンス作品における映画字幕」
- ・「高校演劇を芸術的な側面から分析する試み——『トシドンの放課後』と『夏芙蓉』を題材に」
- ・「*The Lion, the Witch and the Wardrobe* に描かれる成長——エドモンドと白い魔女を中心に」

#### 【2020 年度】

- ・「谷崎潤一郎『細雪』（一九四八年）における東京」
- ・「ロラン・バルトと禅——『記号の国』をめぐって」
- ・「『十五少年漂流記』と戦争——伊藤松雄作品の比較研究」
- ・「明治・大正の銀器——宮本商行のカタログ分析を中心に」
- ・「作曲家 G・マーラーの音楽作品とその音楽的正確について——葬送行進曲のモチーフを中心に」

#### 【2019 年度】

- ・「中島敦における人格と物語——「古譚」というテキスト及び「国文学」との接触」
- ・「ヴォローシンの風景画における詩と画」
- ・「木島始の文学に現れる戦争」
- ・「メアリー・カサットの劇場画における男女の視線——フェミニズム的解釈の再考」
- ・「『ナルニア国物語 ライオンと魔女』原作と映画の比較研究——アダプテーションという創造的解釈」
- ・「西洋音楽評論家としての永井荷風——「西洋音楽最近の傾向」を検討する」
- ・「大正期における詩人、詩壇、同人誌——『感情』（1916-1919）を例として」

## 卒業後の進路(就職・進学)について

卒業生は、国際交流関係、官庁、出版・放送・新聞・広告などのマス・メディア、図書館司書(国会図書館等)、教育関連分野、コンサルタント業界などで活躍しています。

本コースは大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コースに直結しています。これは駒場キャンパスで最も古い研究室の一つであり、すでに半世紀以上の歴史と実績があります。詳細は比較文学比較文化研究室ウェブサイトを参照してください (<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/index.html>)。

大学院で研究を深めて、美術館学芸員、図書館司書、大学教員などを目指すことができます。すでにそのような分野で多くの修了生が活躍しています。

## 本コースへの進学を考えている皆さんへ

文学と芸術を愛し、じっくりと取り組んでみたいと思う方を歓迎します。まだ具体的にやりたいことが決まっていない場合でも、2年半のカリキュラムでテーマを見つけて、熟成させていきましょう。皆さんが「問題発見解決型」の知性を身につけ、一生の財産になるような作品や経験に出会えるように、私たちは願っています。

## 教員紹介

東京大学比較文学比較文化研究室ウェブサイトの「大学院担当教員紹介」のページに、詳しい情報を掲載しています。

<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/profs/index.html>

石原 剛    いしはら つよし

アメリカ文学・文化、日米文化交渉史、マーク・トウェイン

伊藤 徳也    いたう のりや

中国近現代文学、日中比較現代文芸史

今橋 映子    いまはし えいこ

比較文学・比較文化(近代日本文学・文化におけるパリ、〈パリ神話〉研究、日本近代美術批評史、ことばと絵画(写真)の相関関係、など)

Hermann Gottschewski    ヘルマン ゴチェフスキ

音楽学(西洋音楽史、近代日本音楽史、音楽理論、演奏論)

佐々木 悠介 ささき ゆうすけ

比較芸術（映像とテキストのジャンル間比較、仏語圏・英語圏・日本の地域間比較）

佐藤 光 さとう ひかり

英文学、ロマン主義文学、イギリス児童文学、比較文学、白樺派、民藝

寺田 寅彦 てらだ とらひこ

比較文化（テキストとイメージ論）・比較芸術（19世紀フランス文化・文学・芸術）

徳盛 誠 とくもり まこと

東アジア古典学/十八世紀日本を出発点とした比較文学比較文化研究

前島 志保 まえしま しほ

比較文学・比較文化（比較出版史、比較読書文化史、俳句の翻訳・受容研究）

松井 裕美 まつい ひろみ

近現代美術史（特に20世紀フランス）、比較芸術（20世紀美術と文学）